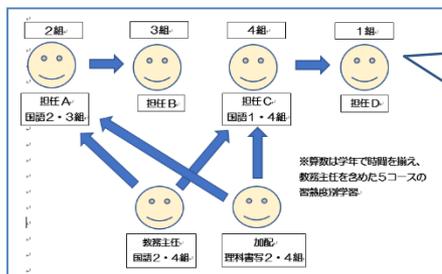


**取組①〈指導体制：教科担任制・T T・習熟度別〉**

(3年) 担任3名+加配教員1名での教科担任制を実施。各担任は「国語」「算数」「理科・社会」を指導し、加配教員は「算数」に配置。算数のT Tや少人数指導を可能とした。

(5年) 担任4名+加配教員1名+教務主任で、国語のT T、算数の習熟度別学習を実施した。



**5年の教員の配置図**

国語と算数を持つ加配と理科と書写を持つ加配で構成し、国語のT Tを可能とした。若手教員の指導力向上も視野に入れた取組。



算数では、習熟度別学習だけでなく、学習内容に応じて時間割を組み直し、T Tも実施。タブレットの導入もあり、個に応じた指導の充実を図ることができた。

図：T 2 (担任) がタブレットを使ってヒントを与えている。

**取組②〈学校研究：国語の研究授業〉**

学校研究を「学力向上を図る教育活動の充実～主体的・対話的な授業の展開を目指して～」と設定し、各学年の授業公開を行った。昨年度は国語・算数であったが、今年度は国語に絞り、研究を進めた。

研究協議では、本校教員で、少人数のグループ協議を実施し、その上で指導者からご指導をいただいた。



対話的な学習においては、資料を適切に活用させ、考えを可視化させることで、話し合いの活性化を促した。



I C Tの活用を積極的に行った。T 1 T 2の役割分担を明確にすることで児童の考えをスクリーンに即座に反映させることができ、児童の思考を深めた。

